

解説：

2019年の国民栄養・健康調査によれば、日本の加熱式タバコ使用者は総喫煙者の約3割である。

アメリカのFDAは加熱式タバコを使用すると紙巻きタバコよりも有害物質の曝露量が減少することは認めている。しかし、紙巻きタバコよりも健康被害が少なくなるとするエビデンスは未だ得られていない。

WHOから加熱式タバコによる受動喫煙のリスクについては、科学的根拠は十分でなく、更なる研究が必要との見解が出されている。

加熱式タバコは紙巻きタバコよりもニコチン摂取量は少ないが、加熱式タバコであってもニコチンの吸収過程は紙巻きタバコと同じであり、ニコチン依存症は維持される。

タバコ会社が資金提供する研究においては、有害物質が著しく軽減されていると報告されているが、有害物質の軽減が健康リスクを低減させるかどうかについては、現時点で科学的根拠はない。

解答：d

尚、この問題は厚労省ホームページと日本医師会生涯教育講座コンテンツ「禁煙支援・治療（CC・82）」を参考に作成しました。